

賀のささやかな宴を開催しました。

宮原氏は、求道者としての厳しさと宴会時等に時おり見せるざつくばらんなユーモア溢れる態度に尊敬の念と好感を抱いている仲間も多く、時の経つのも忘れて積もる話など二十一時過ぎまで痛飲しました。

また、五月十二日(日)には熊本市内の公徳会武道場で開催された合気万生道本部満五十三周年記念演武大会に当道場からも二組参加しました。

一組は村里五段と古屋四段による短剣技、もう一組は筆者、野瀬と田中侑君の自由技、受けをしてくれた田中少年はまだ高校一年生ながら、また急な代役であったにもかかわらずスムーズに受けをしてくれて感謝しております。



村里五段と古屋四段

年に一回の道場にとって一番重要である総会を去る7月一日(日)岩屋中学校武道場にて稽古終了後に畳の上に車座になって開催しました。

一般会員の過半数を超える十四名の方に出席していただき、まず総会成立の旨を宣言。

主な議題は平成十八年度の決算と平成十九年度の事業計画とそれに伴う予算書(案)についてでした。

特に十八年度決算については、事前に監事が厳正に内容を帳簿と突き合わせながら見ていたことも

あり、満場一致で承認していただきました。

十九年度の計画についても快く承認していただき、特に子ども中心とした親睦会については、前回開催した夏場のソーメンを食べる会から約二年間経過していることもあり、その後会員になった幼年部の会員及びその父兄らも多く、再び開催することを軸に、実行委員のスタッフで検討することになりました。

次に、今回は二年毎の役員改正時期であるため諮ったところ、現在の役員が引き続き勤めることとなりました。紙上を借りてよろしく願います。

なお、欠員となっていた監事一名については若杉さんを推挙の意見が出され、満場一致で承認されました。

一番裏方で苦勞が多い

総務事務のうち会計については市川さん、それと引き続き松尾さんも手伝いながら吉田牧子さんも応援してくれる体制が整いました。

その他のところでは、今後予算に余裕があれば少し武道関係で稽古の参考になりそうな書籍や映像を購入してはどうか、

二ヶ月に一回の割合で道場内で実施している演武に幼年部ももっと参加させてはいいかがか、水曜日等少し早めに道場に来て空いておれば稽古してよろしいか等、前向きな意見が三点ほど出され、いずれも前向きに検討していくこととなりました。

今後とも道場を運営していく上で、それぞれの立場で、もちろん家庭や仕事を優先しながらできることを自らやっつけていこう、そのような雰囲気があった

ん盛り上がりつつありま
す(早く来て、補助稽古用
のマットを敷く人、掃除機
で畳を掃除する人、万生道
の道歌を道場正面に掲載
する人、それに初心者特に
幼年部の子どもにつきつ
きりで指導にあたる人、い
ろいろ目に見えないところ
での会員の協力が
北道場のパワーとなって
います)。

これこそ砂泊先生が日
頃から言われている「この
武道が広まっていくと、世
界は平和になる」という道
に向かつての修行そのも
のではないのでしょうか。

「争い」ことを止めるのが
武道の使命である」

現代はたいへんな過当
競争の時代であり、人々は
とにかく自分のことを中
心に考えている。

このことは、時代が不景
気ということも重なり、今
日幸せに暮らしていても

明日はリストラ、会社倒産
等どうなるか予想もつか
ない社会状況を考えると
仕方のない部分もある。

特に家庭をもち子供を
育てて行く立場にある者
は、そうしたことを痛切に
感じる。

また、一方では世の中が
乱れている状況下、本当に
考えられないような事件
や事故が多く、何がどんな
事件なのか全く判らない。

少し感覚が麻痺してい
るのかもしれない。

例えば、貴重な財産が火
事で燃えてしまうことと
か、殺人事件も特別なもの
でない限り、新聞記事の片
隅にしか載らず、そしてそ
の記事を読んでも日が経
つと「そんな記事もあつた
かな」というぐらいである。
考えてみれば恐ろしい
ことである。

このような時代の状況
下において、人々は何を求

め、何を探しているかを考
えると、当然物質的な欲求
を満たすためのものもあ
るが、それよりも自分自
身に対する心の満足では
ないだろうか。

つまり、自分自身裸にな
っても何か一つできるも
のがある、そしてそれは人
よりも優れているという
技術的なものと思う。

また、心技体の強さも求
めている。

このような、物質的なも
のよりも精神的な欲求を
求めている状況下におい
て、武道をしているものは、
真剣な姿勢で自らを鍛え、
そして今の敵しい状況を
乗り切っていかなければ
ならない。

砂泊先生が有段者交流
研修会でいつも言われて
いるのが、「超人的な人で
あつた植芝先生は、合氣道

の目的はこの世の地上に
争いごとのない世界を作

ることである。」というこ
とをよく言われる。

また、以前武道の目的に
ついて、研修会の時に話さ
れたのは、「武道を通して
何を養うか」というと、それ
は決断力である。つまり、
危ないことを未然に防止
またはそこを避けること
を養っているのであり、決
して体的な強さだけでは
ない。」ということである。

しかしながら、このこと
は大変難しいことである。
争い事を止めるには、それ
以上に相手よりも自分が
勝つていなければならい
と思つし、また、逆に相手
にやられたらもうそれで
ゲームオーバーである。

したがって、自分で自分
を鍛えるしかない訳であ
るが、それには絶対に達成
できる目標を立てること
である。

目標があまり高いと目
標倒れになるため、小さな

目標を立てたほうがいい。
例えば、週に一回は必ず稽
古に行くとか、一年の稽古
日数を五十日とか、まずは
やさしい目標を立てるこ
とである。

そうしてやっているう
ちに、自信が付き成長する
ものである。

今まさに、便利になった
反面安心して暮らすこと
が難しい社会において、争
いごとは日常的になつて
いるものの、武道をしてい
るものは、絶対にそれを防
止しなければならいし、
防止するためには、それ以
上に相手よりも勝るよう
な実力を身につけなけれ
ばならない。(平成十七年
二月 浜田)

お知らせ等

今回は、旅シリーズはお休
みます。日本列島を直撃
した台風十四号の被災者
の方々には謹んでお見舞
い申し上げます。